

実践活動報告書「日本語教室支援の拠点づくり」

公益財団法人福岡よかトピア国際交流財団

地域日本語共育コーディネーター 中川真智子

1. 事業の概要

福岡市国際部と連携しながら、地域の日本語教室の支援を行っていく。

2. 福岡市の現状（令和4年12月末）

令和4年12月末現在、福岡市の人口は、1,581,398人、外国籍人口40,959人となっており、人口に対する外国籍人口比率は、約2.6%である。国籍別は、1位中国、2位ネパール、3位ベトナムであり、滞在ビザ別では留学生在が最も多い。

地域のボランティア日本語教室は、49教室ある。（福岡都市圏の日本語教室数58教室）。令和4年5月に実施した日本語教室アンケートによると福岡都市圏における日本語ボランティア数は、464人。学習者数は、681人、53か国である。

3. 課題

当財団では、前年度までは、地域の日本語教室支援事業は、「日本語ボランティア養成講座」の開催、福岡都市圏の地域日本語教室をまとめた冊子「日本語教室クラスマップ」の発行、実行委員会形式による「日本語スピーチ大会」の実施が事務職員により進められてきた。令和4年度4月に初めて地域日本語共育コーディネーターが配置される。

令和3年度福岡市外国人施策推進会議「日本語教育部会」報告に、地域日本語学習支援の課題として、（1）地域日本語教室における活動ボランティア不足。ボランティアの高齢化、養成講座修了者の活動参加が少ない。（2）日本語教室間の連携不足などが、挙げられている。

4. 課題への取り組み

4月に地域日本語共育コーディネーターとして着任してから、まず、地域日本語教室へのアンケートを実施し、ボランティアや学習者、教室の状況などの把握を行った。

（1）ボランティア不足、高齢化への対応

ボランティアの人材育成については、これまでも「日本語ボランティア養成講座」として主催団体は変わりながらも30年近く継続している。初期のボランティア講座修了生が立ち上げた日本語教室は、福岡市が支援しながら市内の市民センターを利用して活動が続けられている。当初からの参加ボランティアが根付いて教室運営に携わっているが、高齢化が進み、時代の情報化に対応できていない教室もある。

これまでの「ボランティア養成講座」は、当初からの講座内容を継承して、日本語教育、文法指導に重きを置いたものであった。そのため講座修了生が、日本語指導への自信が持てないままボランティア活動へ進んでいないという意見も見られた。また、令和3年度講座開催は、夜間に開催されていたため就労者の参加も多く、平日昼間の開催が多い日本語教室には参加できないという修了者もいた。

それらのいくつかの課題を解決するために、今年度は事前に講師との企画会議を持ちながら「令和4年度 新・日本語ボランティア養成講座」として、次のような取り組みを行って開催した。

※ 実施期間 8 月 18 日～11 月 24 日（全 10 回）毎週金曜日午前 10 時～11 時半

- ① 講義は、オンライン開催とし定員を昨年度の 2 倍 50 名とした。（応募者 51 名）
- ② 昼間の開催とし、そのまま平日開催の教室での活動がしやすい人を対象とした。
- ③ 多様性を持った受講者を受け入れるため、学生、外国籍住民の受講料を無料とした。（応募者：学生 5 名、外国籍 2 名）
- ④ 修了後の活動への意識付けとして、外国人との対面コミュニケーションや、地域の日本語教室での実習を実施した。
- ⑤ 講座内容を日本語教育の文法中心から、多文化共生や異文化コミュニケーション、「やさしい日本語」等の学びを加えた。
- ⑥ 文法に関する講座は、日本語学習支援の立場で必要な文法項目などの講座とした。

また、養成講座修了者や、活動中のボランティアへの人材育成のため次の事業を実施する。

- ① 「よかトピア入門日本語クラス」の開催
養成講座修了後に財団主催でゼロ初級者に対する「入門日本語クラス」を開催し、修了者へサポーターへの参加を呼びかけた。（1、2 月開催、学習者 10 名、サポーター 6 名。）
- ② 「日本語ボランティアフォローアップ研修」の開催
養成講座修了後に活動を開始し、さらに文法などについて学びたい人に対してフォローアップ研修を開催する。（3 月 4 回開催予定）
- ③ 「日本語ボランティアスキルアップ研修」の開催
現在、日本語ボランティア活動している人に対して必要な情報やスキルを学ぶスキルアップ研修を開催する。（3 月 2 回開催予定）

（2）日本語教室間の連携不足解消

日本語教室間で、連携したり情報交換ができることで、ボランティアの質を上げたり、活動環境の向上にもつなげていくことを目的に次の取り組みを新たに開始した。

- ① 「ミニセミナー」の開催（9 月）
9 月に 2 回、「日本語クラスマップ」のデータを活用して、学習者やボランティアにとって日本語教室へのアクセスをやすくするため、ウェブ上での検索 HP 作成について、NPO 団体からの提案があったため、地域の日本語教室にも検討会への参加を呼びかけ 2 回開催、11 団体からの参加があった。
また、福岡市の呼びかけによる連絡会が開催され 2 回 16 団体が参加した。いずれもそれぞれの団体の現状や課題を聞くことができた。
- ② 「よかトピア日本語学習支援メール」の開始（10 月～）
地域の多文化共生や日本語学習支援活動に関するイベントやセミナー、ボランティア募集などの情報提供を、興味ある方へメール登録を募り、配信を開始した。1 月末現在、登録者数 78 名、情報提供 15 回、件数 73 件。週 1 回程度配信。
- ③ 財団ロビーへの「よかトピア日本語学習支援コーナーの設置」（11 月～）
当財団 4 階は、福岡市国際会館として国際交流団体が利用できる会議室となっており、ボランティア日本語教室もいくつか開催されている。ロビーに「日本語学習支援コーナー」を設置し、地域の多文化共生や日本語学習テキスト、日本語教育関連書籍等を配架し、貸出を

開始した。(冊数：約260冊) また、地域の日本語教室の情報や、教室のボランティア募集関連のチラシなどを掲示している。

5. 事業を実施して、さらに見えてきた課題。

(1) 「令和4年度 新・日本語ボランティア養成講座」

①受講者増への取り組み

オンライン講座としたことで、受講者は昨年度から倍増となった。しかし、対面授業を希望する受講者もありハイブリッド対応としたことで、事業運営が煩雑となった。次年度以降も、ハイブリッド対応講座とするか検討が必要である。

②昼間の開催。

講座修了後、3か月後に活動につながっているかどうかのアンケート調査を実施予定(目標活動者50%)。昼間だけではなく、週末や夜間開催の教室を増やしていく必要があるため、そちらへ対応できる人材育成も検討が必要である。

③若者や外国籍住民の参加促進

対応とし、一般5,000円の受講料を無料としたが、学生の応募5名中2名が学業との両立が難しくなったため途中で辞退となる。大学生は、夏休み等の集中講座でないと全参加が難しい。受講料一部負担とし、安易な応募を防ぐなどの検討が必要である。

④地域の日本語教室での見学・実習。

受講者の感想は、現場を体験することができたとおおむね好評であり、講座修了後の活動へのモチベーションとなった。次年度以降も地域の日本語教室の協力を得ながら継続。実習期間を2か月間としたため、受講者によっては間延びした感があったとの意見もあった。次年度は、実習期間を短くすることや講義と並行しての実施を検討。

⑤地域の多文化共生や、異文化コミュニケーション、「やさしい日本語」の学び。

多文化共生や異文化コミュニケーションについては、理解が深まったとの意見あり。しかし「やさしい日本語」については、紹介にとどまった感があり、受講者が「やさしい日本語」を実践できる時間を増やし、日本語学習支援の場のみではなく地域の多文化共生の場であるとの理解を共有できる講座とする。

⑥日本語学習支援に必要な文法の学び

日本語文法の講義については、学習者と共に学んでいく場であると理解した受講者と、もっと文法を学ばなければ教えられないと理解した受講者に分かれた。どのような文法の学びの講座が必要であるか、講師等ともさらに検討が必要である。

(2) 日本語教室間の連携不足解消

いくつかの事業を開始してきたが、まだ、全体的にPR不足である。今後当財団HPやFBなどを活用して、広く周知していく。

6. 今後の展開

(1) 「入門日本語クラス」を福岡市と協力しながら、公民館などで立ち上げていく。

(2) 地域の多文化共生推進のため、公民館などで日本語学習者と地域の日本人との交流の場を作っていく。